

令和 3 年度

旭川市科学館事業活動計画

令和 3 年 4 月

旭川市科学館

目 次

I 事業方針等

1 事業方針.....	1
2 活動目標.....	1
3 事業分野及びねらい.....	2
4 事業の体系.....	7

II 事業活動計画

■ 学習普及活動

1 展示事業.....	11
2 実験実習事業.....	12
3 イベント・行事.....	28
4 天文普及事業.....	35
5 学校等連携・人材育成事業.....	43
6 ボランティア事業.....	46

■ 調査研究活動..... 47

■ 情報提供活動

1 情報提供とPR活動.....	48
2 集客活動.....	51

I 事業方針等

1 事業方針

旭川市科学館の設置目的である、科学の理解、普及、学習、研究に資する事業活動は、以下の事業方針に基づき展開する。

- 1 「ふしぎからはじまる<科学>との出会い」をテーマに、体験性を重視した手法で、科学のおもしろさを伝え、楽しく科学への興味や探究心を育む。
- 2 子どもから大人まで、多様な世代の人々が総合的・横断的に科学を学ぶ機会を提供する。
- 3 グローバルな視点と地域の視点の双方に立って知識と技術を養い、未来を創造する力を育む。
- 4 学校や他の教育機関と連携し、理科教育の推進に努める。
- 5 地域に根ざした自然科学の調査研究活動を行い、その成果を発表し、学習普及活動に還元する。
- 6 各種媒体を通じた科学館や事業活動の情報発信を行うとともに、教育旅行・コンベンションの誘致等により利用の増進を図る。

2 活動目標

事業方針に基づき、「学習普及」「調査研究」「マーケティング」の活動を推進するものとし、これらの活動は以下の活動目標（目指す状態）の達成に向けて実施する。

■学習普及活動目標

- (1) 「ふしぎからはじまる<科学>との出会い」を具現化するため、展示と事業は、体験要素を多く取り入れた、双方向性の高いものとなっている。
- (2) 科学に興味をもち、知識や体験を深めることができるよう、継続的に参加できる実験実習や科学イベントが開催されている。
- (3) 多様な世代の人々に向けて学習の機会が創出され、生涯学習の場が提供されている。
- (4) 自然とのふれあいや観察を通じて、観察力や創造性を育むことができている。
- (5) 実験やものづくりの基礎を学び、科学的思考や創造性を育むことができている。
- (6) 児童生徒の学年や学習目的に応じた、様々なプログラムが提供できている。また、理科教材の開発・提供などにおいて、科学館と学校教育との連携ができている。
- (7) ボランティアや科学教育関係者などと協力して、学習普及活動を進めている。
- (8) 実習生や研修生を積極的に受け入れ、自然科学の普及を担う人材を育成している。
- (9) 科学館の教育での利活用について、教育関係者に理解が十分なされ、実際に良く活用されている。

(10) 他の博物館施設等と連携した学習普及活動が実施されている。

■調査研究活動目標

(11) 地域の人材や技術を活用し、近隣自治体や研究機関、専門家等と連携しながら、天体観測や旭川周辺の生物、環境など自然科学に関する調査研究活動を行っている。

(12) 教育関係者等と連携、協力し、新たな理科教材や実験実習手法の開発が進められている。

(13) 刊行物の発行や講演会の開催等を通じ、調査研究活動の成果が積極的に地域に普及・還元されている。

■マーケティング活動目標

(14) 来館者及び事業参加者が必要とする情報を適時的・効果的に提供できており、事業が十分に周知され、多くの人が事業に参加できている。

(15) 旭川市博物館や旭山動物園など、設置目的や来館者層が共通した他施設と連携し、学校団体などの誘致に取り組んでいる。

(16) 旭川圏域外の学校等に対する周知活動を行い、教育旅行の取り込みを行うほか、学会・会議等の誘致により活用機会の増進が図られている。

3 事業の分野及びねらい

各活動に位置付けられ、それぞれの活動目標に基づき実施する事業は、分野毎に次のようなねらいのもと、企画、実施する。

学習普及活動

■展示事業

(ア) 特別展示・企画展示・常設展示

- ・常設展示は、「北国」「宇宙」「地球」のテーマに沿った展示を行い、これらの展示機器のメンテナンス及び部分的なリニューアルを行うことで、内容と魅力の維持向上を図る。
- ・企画展示は、常設展示では取り扱わないテーマや、標本・資料類を調査研究した成果を活用した展示を、期間を定めて実施する。
- ・特別展示は、企画展示・常設展示では取り上げることが難しいテーマや、最先端の科学技術などを楽しく学ぶことができる、双方向性が高く体験型の展示を夏休み等に実施する。
- ・自然科学分野の調査研究活動の成果を、分かりやすく紹介する。
- ・ワークシート等の学習補助資料などの開発を進め、分かりやすく楽しい展示としていく。

■実験実習・体験学習事業

社会教育に対する市民からの要望にこたえるべく、年代、参加形態、興味・関心のある分野の多様性に応じ、様々な講座を用意するとともに、参加者の科学知識や学習意欲に応じて、初級から上級まで、段階的に科学・技術を学ぶ機会を提供する。

また、低温実験室やサイエンスシアターなどを活用して科学の原理を楽しみながら学ぶことができるイベントを開催する。

(イ) 物理・化学

- ・実験、工作やショーなど参加体験型の事業を通じ、子どもたちの科学への興味・関心を醸成し、理科離れ・科学離れを防ぐ。
- ・物理・化学の基本原理や法則を織り込んだ実験や工作を通じ、科学的な動作原理や材料の利用、道具の使い方などの習得を図る。
- ・継続的な実験実習活動を通じ、暮らしや自然の中の不思議や科学原理・現象を学ぶ楽しさを子どもたちに伝え、科学への興味・関心を醸成する。
- ・親子のコミュニケーションを図りながら実験・工作を行う。

(ウ) 生物・地学

- ・身近な自然の中での活動を通じ、生き物や生態系、その環境要因を形成している地質学的な成り立ちなどについて学ぶ機会を広く設ける。
- ・実験や観察、標本作りを通じ生物・地学に関する科学的な考え方や知識を深める。
- ・サイエンスボランティア旭川等と連携し、普及活動を行う。
- ・専門家から知識を習得する機会として、フォーラムや講演会、講座などを開催する。

(エ) ものづくり

- ・「遊びごころ」を取り入れながら、道具の使い方や観察力・創造性を育み、科学に興味や関心を持ってもらう取り組みを進める。
- ・地域の技術や人材を生かした木工作・クラフト等により、ものづくりという視点から科学に興味を持ってもらうとともに、楽しみながら学ぶことができる活動を行う。
- ・実験・工作活動を通じて、自ら考え工作する意欲や喜びを体得させ、科学的創意の芽を育む。

(オ) 情報技術

- ・IT化が進んだ現在、日常生活に深く結びついたパソコンについて、主に初心者を対象に基本的な操作などを学んでもらう講座を開催する。
- ・小・中学校でプログラミング授業が導入されたことから、コンピュータ的な考え方のトレーニングや、プログラム作成の実践の場として、児童・生徒の学習段階にあわせた講座を開催する。

(カ) 野外活動

- ・近隣の忠別川河畔林や神楽岡公園に囲まれた立地条件を生かし、トンボ池やバタフライガ

ーデンなどの野外自然観察空間における自然観察会や自然体験教室などの野外活動を行う。

- ・自然環境、生物の現地調査などを市民と実施することで自然に対する興味・関心を広げる。

■科学イベント・行事

(キ) 科学イベント・行事

- ・来館者の多い土日曜日・祝日を中心に、公開実験や科学工作などの参加体験型のイベントを開催し、子どもたちの科学への興味・関心を育む。
- ・科学に関する絵画や作文など各種コンクールを開催し、科学に関する話題や研究について興味関心を抱かせる機会とし、科学リテラシーの向上を図る。

(ク) 科学情報の発信

- ・科学的話題や研究結果について、刊行物や映像資料を活用して積極的に情報発信する。
- ・書籍等による情報提供にとどまらず、光学機器類を利用して観察を行うなど、子どもから大人まで幅広い年代の利用者が自主的に学習できる場であるレファレンスルームの更なる充実に努める。
- ・事業活動の実績や研究成果などを『館報』や『研究報告』などで広く紹介する。

■天文普及事業

(ケ) プラネタリウム

- ・一般番組：季節の星や星座・宇宙のほか、天文学の基礎や最新の学説を紹介し、天文に興味を持ってもらう。
- ・幼児番組：季節ごとの星にまつわる物語などにより、未就学児や小学低学年などの小さな子供に星や宇宙に興味を持ってもらう。
- ・ドームシアター：一般向けの全天周番組を上映することで、投影番組に多様性を持たせ、様々な来館者のニーズに応える。
- ・学習番組：学校教育における天文学習への理解を促進するため、学校の授業だけでは理解が難しい天体の動きや月の満ち欠けなどを疑似体験することにより、子どもたちの天文への関心を深める。
- ・夜空を彩る星や星座、その時々天文現象を分かりやすく解説し、天文知識の普及を図るため、観覧者の幅広い年齢層に対応した自主制作による一般番組、学習番組、幼児番組、特別番組の投影を行う。
- ・一人でも多くの人にプラネタリウムに足を運んでもらうため、話題性の高い特別番組やコンサートなどを実施するとともに、天文台の観測画像の活用など、施設の相乗効果が発揮できる事業にも取り組む。

(コ) 天文台

- ・天文に関する知識や求めるレベルの異なる様々な来館者に対応し、多様な普及活動を行

う。

- ・最新の天文学や宇宙観測の成果などについて、専門のスタッフや研究者が分かりやすく解説する「星の教室」、太陽や惑星、その他の天体の様子を実際に天文台の大型望遠鏡を使って観測し、その時々話題や天文現象、観望好時期になる天体について解説する「天体を見る会」等を行う。

■学校等連携・人材育成事業

(サ) 学校教育等との連携・人材育成への寄与

- ・小中学校等の団体利用の際に、学年や目的に応じた様々なプログラムを用意し、総合的な学習などの授業を支援するなど、科学館と学校教育との連携を図る。
- ・教員や学芸員の実習などを積極的に受け入れるとともに、小・中学校や大学の研究室、公的研究機関等と連携して共同研究の推進や研究活動の発表の場としての活用を図る。

■ボランティア等との連携

(シ) 活動支援と自主事業

- ・学習普及活動及び調査研究活動について、サイエンスボランティア旭川や他の団体と連携して事業運営するとともに、科学館におけるボランティア自主事業についても積極的に展開を支援する。

調査研究活動

(ス) 天体観測

- ・大小2基の天体望遠鏡を活用し、旭川天文同好会や専門家・研究者との協力による天文台運営に取り組み、天体観測の拠点としての機能を高める。
- ・国内の公設天文台として最も長期間行っている太陽黒点観測を継続して実施するとともに、観測資料など各種調査研究成果の公表と有効活用を図る。

(セ) 生物調査

- ・野外自然観察空間及び周辺の生態系調査をサイエンスボランティア旭川や専門家、市民と協力して継続的に実施し、生態系の復元に伴う種の多様性の変化を観測し、記録する。
- ・上川盆地及び周辺地域などローカルな視点に立ち、地域の自然史に関する調査研究を実施する。

マーケティング活動

(ソ) 情報提供とPR活動

- ・各種印刷物を通じて広くPR活動を行うとともに、市民や利用者とのコミュニケーションを推進し、様々な意見や提言等の科学館運営への反映に努める。
- ・ホームページ等を充実させ、情報化社会の進展に対応した情報提供を図る。

(タ) 集客活動

- ・修学旅行や学年・クラス単位の学校授業など、団体客誘致を進めるとともに、各種学会・

会議等の誘致や受け入れなど施設の有効利用に取り組む。

- ・旭山動物園など，設置目的や利用者層の共通する他施設と連携しながら，共催・協力事業の開催等により，小中学校団体見学など市内を始め，道内外各地からの来館者誘致に取り組む。
- ・観光関係機関・団体が主催する各種誘致宣伝事業に参加し，市外の学校や団体の利用について積極的にPRする。
- ・市民広報や報道機関への情報提供など，様々なツールを活用して周知を行う。

4 事業の体系

■ 学習普及活動

1 展示事業

事業名		
○事業1 特別展示・企画展示・常設展示		
1-(1)	コロッ・クルの夏休み	新規
1-(2)	常設展示のリニューアル	新規

2 実験実習・体験学習事業

事業名		
○事業2 講演・講座		
2-(1)	市民科学講座「サイエンス・セミナー」「サイエンス・ツアー」	継続
2-(2)	講演会「野鳥講演会」	継続
○事業3 実験実習・体験講座		
3-(1)	科学館クラブ	継続
3-(2)	親子でチャレンジ! わくわく実験室	継続
3-(3)	こども科学博士	継続
3-(4)	ちょっと大人の科学実験	新規
3-(5)	パソコン基礎講座	継続
3-(6)	はじめてのスクラッチ	継続
3-(7)	親子プログラミング体験	継続
3-(8)	マイクロビットであそぼう	継続
3-(9)	中・高生のためのプログラミング教室「Python入門講座」	継続
3-(10)	地学体験学習	継続
○事業4 ものづくり教室		
4-(1)	市民木工教室	継続
4-(2)	親子木工教室	継続
4-(3)	ジュニア木工教室	継続
4-(4)	親子とんとん工作	継続
4-(5)	初歩の電子工作	継続
4-(6)	趣味の電子工作	継続
4-(7)	キッズ電子工作	継続
4-(8)	糸のこ体験工作	継続
4-(9)	親子かんたん電子工作室	継続
4-(10)	テック・ラボ	新規

○事業5	野外活動	
5-(1)	自然観察会	継続
5-(2)	自然体験学習	継続

3 科学イベント・行事

事業名		
○事業6	科学イベント	
6-(1)	サイエンススタジオ	継続
6-(2)	サタデーサイエンスひろば	継続
6-(3)	低温実験	継続
6-(4)	科学館まつり	継続
6-(5)	わくわくワーク	継続
6-(6)	ミニミニ展示	継続
6-(7)	おうちでサイパル	新規
○事業7	各種行事	
7-(1)	科学の夢の図画コンクール	継続
7-(2)	「宇宙の日」全国小・中学生作文・絵画コンテスト	継続
7-(3)	科学技術週間行事	継続
7-(4)	科学技術映像祭入選作品上映会	継続
○事業8	情報と自主的な学習の場の提供	
8-(1)	レファレンスルームの運営	継続
8-(2)	YouTubeの活用	新規

4 天文普及事業

事業名		
○事業9	プラネタリウム事業	
9-(1)	プラネタリウム一般番組	継続
9-(2)	プラネタリウム幼児番組	継続
9-(3)	プラネタリウム学習番組	継続
9-(4)	プラネタリウムドームシアター	継続
9-(5)	プラネタリウム特別番組	継続
○事業10	天文台事業	
10-(1)	星の教室	継続
10-(2)	親子天文博士	継続
10-(3)	天体を見る会	継続
10-(4)	出張天文教室	継続
10-(5)	夏・冬休み天文教室	継続
10-(6)	コズミック・カレッジ	継続
10-(7)	天体を撮る会	新規

5 学校等連携・人材育成事業

事業名		
○事業11	学校等連携事業	
11-(1)	科学館体験学習	継続
11-(2)	プラネタリウムの学校授業での活用	継続
11-(3)	巡回実験教室	継続
○事業12	人材育成事業	
12-(1)	実習生の受入れ	継続
12-(2)	人的ネットワークづくりと人材育成	継続
12-(3)	サイパル理科研修会	継続
12-(4)	教育大学生の受入れ	継続

6 ボランティア等との連携事業

事業名		
○事業13	ボランティア事業	
13-(1)	サイエンスボランティア旭川自主事業	継続

■ 調査研究活動

事業名		
○事業14	調査研究活動	
14-(1)	太陽黒点や惑星・月などの天体観測	継続
14-(2)	野外自然観察空間の生態系調査	継続

■ マーケティング活動

1 情報提供とPR活動

事業名		
○事業15	広報活動	
15-(1)	ホームページ等の運用管理	継続
15-(2)	市民広報, 報道機関への情報提供	継続
○事業16	刊行物・PR印刷物の作成	
16-(1)	『科学館報』の発行	継続
16-(2)	『旭川市科学館研究報告』『天文略表』の発行	継続
16-(3)	各種パンフレットなどのPR印刷物の発行	継続

2 集客活動

事業名		
○事業17 団体客の受入れ・誘致		
17-(1)	各種学会・会議等の受入れ・誘致	継続
17-(2)	観光関係機関・団体と連携した市外団体や観光客利用の誘致	継続
○事業18 来館者へのサービス・意見反映		
18-(1)	来館者アンケートボックスの設置	継続
18-(2)	事業活動アンケートの実施	継続
○事業19 他施設・市民団体・学会との連携・協働		
19-(1)	旭山動物園など他施設との連携	継続
19-(2)	市民団体等との連携・協力	継続

II 事業活動計画

■学習普及活動

1 展示事業

○事業1 特別展示・企画展示・常設展示

【事業1-(1)】 コロッ・クルの夏休み 【新規】

多数の来館者が見込まれる夏期休暇期間に、科学体験イベントやオンラインの工作・実験講座などを集中的に開催し、科学への興味関心の喚起や体験を深める機会とする。

- 内 容
 - ・ドローンサーキット…ミニドローン操作体験会。
 - ・GPSクエスト（仮題）…GPSアプリを使って、科学館～敷地内に隠された文字やイラストなどのヒントを探してクイズを解く。
 - ・お盆週間サイエンスショー…8月7日～15日に毎日3回サイエンスショーを開催。
 - ・リモート科学館…オンラインによる工作・実験講座。
 - ・ジオフェスin旭川…地学・鉱物に関するワークショップやパネル展等。
- 開催期間 7月21日（水）～8月19日（木）
- 対 象 どなたでも
- 定 員 イベントにより異なる。サイエンスショーの屋外テーマとジオフェス（ワークショップ除く）は定員なし。
- 参 加 料 ドローンは1回100円、ショー（屋内）は常設展示室観覧料が必要。リモート科学館はキットを500円で販売する。GPSとジオフェスは無料。
- 主 催 企画展開催実行委員会（旭川市教育委員会、サイエンスボランティア旭川、旭川市小学校長会、旭川市中学校長会）
- 共 催 第8回ジオフェスin旭川実行委員会（仮称）

【事業1-(2)】 常設展示室のリニューアル 【新規】

常設展示室の内容と魅力を向上させるため、寄附金等により造成した基金を活用し、常設展示室に新しい展示を製作・設置する。

- 内 容
 - ・錯覚いろいろコーナー
 - ・インタラクティブ地球儀「Sphere」

2 実験実習・体験学習事業

多様な年代，参加形態，興味・関心のある分野に応じて様々な科学教室・講座を用意し，参加者の科学知識や学習意欲に応じて科学を学ぶことができる事業を行う。

○事業2 講演・講座

【事業2-(1) 市民科学講座「サイエンス・セミナー」「サイエンス・ツアー」 **【継続】**
自然科学の最新の研究や話題について提供し，広く市民への自然科学の普及啓発を図る。

- 内 容 自然科学分野の今日的な話題の提供
- 開催日時 6月～1月
- 対 象 中学生以上
- 定 員 50～100人 事前申込（抽選）
- 講 師 等 名誉館長及び顧問の中から，日程調整の上講座を開催する。
 - (1) 岡田 弘（旭川市科学館名誉館長） サイエンス・ツアー，サイエンス・セミナー
 - (2) 馬場悠男（旭川市科学館顧問） サイエンス・セミナー
 - (3) 渡部潤一（旭川市科学館顧問） サイエンス・セミナー
 - (4) 小林快次（旭川市科学館顧問） サイエンス・セミナー

【事業2-(2) 講演会「野鳥講演会」 **【継続】**
野鳥の専門家を招き，野鳥の魅力について話しを聞き，自然保護の理解を深めるとともに自然保護の輪を広めることを目的とする。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，令和3年度の開催中止を決定。

○事業3 実験実習・体験講座

[事業3-(1)] 科学館クラブ [継続]

子どもたちが体験しながら自ら科学を学ぶことを狙いとし、実験やものづくりなどのコースごとに基礎的な実習活動を継続的に実施する。

- 内 容 子どもたちへの自然科学の継続的な普及活動の柱と位置付け、様々な実験実習、工作等を体験する場を提供する。体験しながら自ら科学を学ぶことにより、発見・創造する喜びを感じ、科学への興味・関心を高めることを目的とする。

星・宇宙クラブ	・季節の星座や、その時々に見える天体の解説を行い、科学館の大型望遠鏡を使って観測し、自分の目で実際に天体を見ることで、宇宙の雄大さや天体観測する楽しさを体験する。
理科クラブ	・学校では実施することが難しい実験や工作を通じ、科学に対する驚きや楽しさを伝える。「なぜそうなるのか」「どうすればいいのか」など、考える基本姿勢を実習の中で養っていく。
電子・工作クラブ	・各種工具の使い方や加工方法、材料の基礎知識等を学び、電子工作と木工を組み合わせた作品作りを通して、ものづくりへの興味・意欲を育む。
パソコンクラブ	・教育用プロムラミング言語を用い、簡単なプログラムを作成することで、プログラミングの考え方を学び、論理的な思考能力を養う。
センサ・マイコンクラブ	・センサを使って自律走行するマイコンカーの工作を通して、センサの活用とアルゴリズムの考え方、モーター等の制御を身につける。 ・アイデアを具体化するためには、どのようにマイコンやセンサを使えば良いかを、くふうや実験を通じて考え実践する。
実験クラブ	・小学校高学年を対象とした理科クラブ上級編。比較的高度な理科実験を通じ、物理、化学、自然科学への導入とする。

(テーマの例)

◆星・宇宙クラブ

回数	内 容	
	<前期>	<後期>
1回	春の星の観測	月面の観測
2回	月面の観測	冬の星の観測
3回	夏の星の観測	冬の星の観測
4回	惑星の観測	惑星の観測
5回	秋の星の観測	春の星の観測

◆理科クラブ（木・日曜日コース共通）

回数	内 容
1回	ペットボトルロケット
2回	小麦粉粘土・貝の模型づくり
3回	レファレンスルームの生き物を観察しよう
4回	廃油キャンドル作り
5回	スカイスクリーユと万華鏡

◆電子・工作クラブ

回数	内 容
1回	・木工作安全作業のための約束事，木工作の基本知識，いろいろな道具，材料の知識
2回	・糸のこ加工の方法，糸のこ練習，図案
3～5回	・材料切り抜き，サンドペーパーかけ，組み立て，塗料の知識，塗装方法，塗装
6～10回	・電子工作の基本知識（安全作業のための約束事，電子部品の知識，工具の使い方，はんだ付けの方法など），基板製作，加工，組み込み，完成

◆パソコンクラブ（午前・午後コース共通）

回数	内 容
1回	・オリエンテーション・スクラッチとプログラミングについて
2～4回	・キャラクターを動かしてみよう
5～7回	・いろいろなプログラムを組んでみよう 図形描画 シンセサイザー 計算クイズ
8～10回	・ゲームをつくってみよう

◆センサ・マイコンクラブ（通年）

回数	内 容
1～4回	・オリエンテーション，目標をきめる ・マイコンボードにいろいろなプログラムを入れてみる
5～8回	・いろいろなセンサとアクチュエータを試す ・マイコンカーのしくみと基本的な動作を確認する
9～15回	・マイコンカーの制御プログラムを構想する ・マイコンカーにセンサとプログラムを組み込み試す ・完成度を高めて発表する

◆実験クラブ

回数	内 容
1 回	銀鏡反応
2 回	藍染の化学
3 回	テツコさんはいおう好き
4 回	ウチダザリガニの解剖
5 回	消毒液を取りだそう

- 開催期間 前期 5月中旬～9月下旬
 後期 11月上旬～3月中旬
 通年 6月上旬～3月上旬（センサ・マイコンクラブ）
 夏期 5月～7月（理科・実験クラブ）
 秋期 10月～12月（理科・実験クラブ）
 冬期 1月～3月（理科・実験クラブ）
 ※夏・冬休み期間は原則開催しない

- 開催回数 星・宇宙クラブ，理科クラブ，実験クラブ 5回
 電子・工作クラブ，パソコンクラブ 10回
 センサ・マイコンクラブ 15回

○対 象 等

クラブ名	対 象	定 員	曜日・時間	実習費
星・宇宙クラブ	小学3年生～中学生の親子 (※1)	10組 (20人)	土： (前期) 午後7時30分～8時30分 (後期) 午後7時～8時	2,500円
理科クラブ	小学3・4年生	16人	木：午後4時30分～午後6時 日：午前10時～11時30分 (※2)	2,000円
電子・工作クラブ	小学4・5年生	16人	土：午前10時～11時30分	4,000円
パソコンクラブ	小学4～6年生	16人	日：午前10時～正午 午後1時30分～3時30分	2,000円
センサ・マイコン クラブ(通年)	小学5年生～中学生	10人	第2・第4土： 午後1時30分～午後3時	6,000円 (年間)
実験クラブ	小学5・6年生	16人	日：午前10時～11時30分	2,000円

(※1)中学生は単独での参加も可能。

(※2)理科クラブは夏期のみ木曜日も開催する。

【事業3-(2)】 親子でチャレンジ！わくわく実験室 【継続】

暮らしや自然の中の不思議をテーマに、親子で協力して取り組む実験実習や製作活動を通して、調べるおもしろさや分かる楽しさを体験し、科学への興味・関心を高める。

○内 容

(テーマの一例)

バランスをとろう！、とばしてみよう！、じしゃくのふしぎ！、色と光をたのしもう！、タネの大きさを比べよう！、ゴムであそぼう！、空気のカ！、音のふしぎ！、かがくマジック！

○開催期間 夏期 5月～7月（全5回×2コース）

秋期 10月～12月（全5回×2コース）

冬期 1月～3月（全5回×2コース）

※A・Bクラス、前・後期開催。延べ30回。夏・冬休み期間は原則開催しない。

○開催日時 土曜日 午前10時～11時30分

○対 象 小学1・2年生と保護者

○定 員 16組（32人）×2コース（A，B）

○参 加 料 材料費等の実費2,000円

【事業3-(3)】 こども科学博士 【継続】

小学校低学年とその保護者を対象に、暮らしや自然の中の不思議について簡単な実験実習を行い、科学への興味・関心を高める。

○内 容 原理・法則を理解させるのではなく、現象そのものの面白さや、不思議さを体験してもらう。また親子で参加することにより、科学的体験を共有出来るようにする。

(テーマの一例)

小さな世界をのぞいてみよう！、万華鏡づくり、バスボム（発泡入浴剤）づくり、ペットのウシ、こなをこねこね

○開催日時 7月23日（木）、8月1日（日）、8月9日（月）、12月26日（日）、

1月9日（日）、1月10日（月）

午前10時～11時30分（または11時）

午後2時～3時30分（または3時）

○対 象 年中～小学生程度（小学3年生以下は保護者同伴）

○定 員 10～16組

○参 加 料 材料費等の実費300円程度

【事業3-(4) ちょっと大人の科学実験 【新規】

中学生以上を対象に、生活の中で使われている科学などについて実験実習を行い、科学への興味・関心を高める。

- 内 容 器具や材料の問題から家庭では実践しづらい実験などを実践できるようにし、科学リテラシーの向上を図る。

(テーマの一例)

食品の科学, ウイスキーから消毒液を蒸留

- 開催日時 9月25日(土), 12月18日(土)
午前10時~正午
- 対 象 中学生以上
- 定 員 10人
- 参加料 材料費等の実費600円程度

【事業3-(5)】 パソコン基礎講座 【継続】

パソコンをうまく操作できない初心者に、基本的な操作方法や情報収集の手段など、様々な使い方を覚えてもらい、暮らしの中での活用方法を学ぶ。

- 内 容 パソコンで、文書作成がうまくできない。表計算のやりかたがわからない、インターネットで情報を集めたいという初心者を対象に、Word、Excelの基本操作、ウェブブラウザによる情報収集など、様々なパソコンの使い方を学んでもらう。

第1回	Wordの基本	Wordの基本操作、文字入力と変換・文字修飾、レイアウトの工夫、印刷方法などを学ぶ
第2回	インターネット基礎編	インターネットのしくみやウェブブラウザの使い方、検索方法などを学ぶ
第3回	ホームページ活用編	日常に役立つニュース、天気予報、テレビ番組、地図検索を紹介し、使い方を学ぶ
第4回	はじめてのExcel	Excelの基本操作、データ入力、計算・集計、関数の利用などを、家計簿の作成を題材にして学ぶ

- 開催日時 第1回 5月22日(土)・23日(日)の2日間、午前10時から午後3時
 第2回 8月7日(土) 午前10時から正午
 第3回 1月15日(土) 午前10時から正午
 第4回 3月5日(土)6日(日)の2日間、午前10時から午後3時
- 対 象 成人のパソコン初心者
- 定 員 各回10人
- 申込方法 電話による事前申込(先着順)
- 参加料 第1回・第4回 1,000円 第2回・第3回 300円

【事業3-(6)】 はじめてのかたんプログラミング 【継続】

初心者向けのプログラミング言語「スクラッチ」を使用して、プログラミングの考え方を習得させる。

※R1「はじめてのスクラッチ」から名称変更

- 内 容 「スクラッチ」で児童と保護者が作成した命令(プログラム)によって、キャラクターがどのような動きをするかを逐次体験していくと共に、プログラムの基本的な仕組み(分岐命令やループ処理など)を習得する。
- 開催日時 7月23日(金)～25日(日)、1月8日(土)～10日(月)※3日間の連続講座
 午前10時～正午と午後2時～4時の2クラス
- 対 象 小学2・3年生と保護者

- 定 員 各 9 組
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 1,000円

【事業3-(7) 親子プログラミング体験 【継続】

遊び感覚でプログラムが組める言語「ビスケット」を使用して、幼い子どもと保護者に「コンピュータ」というものを理解をする機会を提供する。

- 内 容 絵を描いて遊びながらプログラミングができる「ビスケット」を使って、親子で簡単なプログラムを作成する。
- 日 時 8月1日（日）、12月26日（日）
午前10時～正午、午後2時～4時の2クラス
- 対 象 5歳～小学1年生と保護者
- 定 員 各 9 組
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 300円

【事業3-(8) マイクロビットであそぼう 【継続】

25個のLEDと加速センサ・磁気センサを搭載したマイコンボード「マイクロビット」を自作のプログラムで動かすことにより、ソフトウェア・ハードウェア間の情報伝達と制御について実践的な知識と技術を習得する。

- 内 容 小型コンピュータ「マイクロビット」を使って、自分のアイデアを生かしたゲームなどを作成する。
- 日 時 2月13日（日）・20日（日）・27日（日）午前10時～午後3時
※3回の連続講座
- 対 象 小学4～6年生
- 定 員 10人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 2,500円（機材費込）

【事業3-(9) 中・高生のためのプログラミング教室「Python入門講座」 【継続】

汎用の高水準プログラミング言語「Python（パイソン）」の基礎を学習し、本格的なプログラミングの原理を理解し、将来に役立ててもらう。

- 内 容 パッケージソフトウェア企業やNASAなどの研究機関でも採用されているプログラミング言語「Python」の基本的な文法を学ぶ。
- 日 時 8月21日（土）から11月27日（土）までの土曜日 ※15回の連続講座
午前10時～正午
- 対 象 中学生・高校生
- 定 員 10人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参加料 3,000円（書籍代込み）

【事業3-(10)】 地学体験学習 【継続】

地学分野の様々な体験メニューを提供し、岩石や鉱物、化石等に関する興味関心を高める。

◆アンモナイト化石の中を調べよう

- 内 容 アンモナイトの化石を耐水ペーパーで削って内部構造を調べる。
- 開催日時 7月28日（水）、8月11日（水） 午前10時～正午
- 対 象 小学4年生以上
- 定 員 10人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参加料 300円
- 講 師 サイエンスボランティア旭川・特別学芸員

◆アンモナイトクリーニング体験

- 内 容 参加者がクリーニング作業を行い、化石を岩石の中から取り出す。
- 開催日時 7月30日（金）、8月13日（金） 午前10時～正午
- 対 象 小学4年生以上
- 定 員 10人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参加料 300円
- 講 師 サイエンスボランティア旭川・特別学芸員

◆鉱物標本づくりと岩石調べ

- 内 容 鉱物標本づくりや、岩石などの観察。
- 開催時期 5月～翌年3月に5回程度を予定
(うち3回を午後1時30分～3時、2回を午後6時30分～8時で実施)
- 対 象 小学生以上（夜間実施の場合、小学生は保護者同伴）
- 講 師 サイエンスボランティア旭川・特別学芸員

- 定 員 10人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 200円

◆河原で石拾い

- 内 容 河原の石を拾って観察し，その由来について学ぶ。
- 開催時期 7月～10月に2回程度を予定
- 対 象 小学生以上（小学生は保護者同伴）
- 定 員 10組
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 有料（傷害保険料，資料代として）
- 開催場所 雨紛川，ペーパン川など（現地集合・現地解散）

◆化石採取会

- 内 容 約500万年前の地層からタカハシホタテガイの発掘体験を行う。
- 開 催 日 7月～8月に2回程度を予定
- 対 象 どなたでも
- 定 員 各10人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 小中高生1,700円，大人2,500円 ※沼田町化石館が徴収
- 開催場所 沼田町幌新太刀別川ほろにたちべつかわ（現地集合・現地解散）
- そ の 他 沼田町化石館との共催事業

○事業4 ものづくり教室

【事業4-(1)】 市民木工教室 【継続】

木工の基本や道具の使い方について学び、実用的な身の回りの作品などを製作することで、ものづくりへの興味・関心を高める。

○内 容（作品の一例）

メニュー（作品名）	内 容
マガジンラック ダストボックス シェルフ（本棚） ガーデニング用花台 飾り棚 スツール 折りたたみイス 額と写真立て 子・孫への玩具 リモコンラック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工具の安全な使い方と治具を学ぶ。 ・ ボール盤の使い方／さしがね、止定規、スコヤの使い方 ・ 糸鋸の使い方と材質を学ぶ。 ・ 鋸目の数と板の厚さや材質の関係／板材をつなぐ方法／はた金の使い方 ・ 金槌や釘と板の関係を学ぶ。 ・ 金槌の使い方や重さ／釘の長さ木ねじの長さや板の厚さ／接着剤 ・ 木材と塗料を学ぶ。 ・ サンドペーパーの種類と木の性質／ニスなどの塗り方

○開催日時 第1回：5月15日（土）・16日（日） 第2回：9月25日（土）・26日（日）
第3回：10月23日（土）・24日（日） 第4回：2月19日（土）・20日（日）
午前10時～午後4時

○対 象 高校生以上

○定 員 10人

○申込方法 電話による事前申込（先着）

○参加料 4,000円程度

【事業4-(2)】 親子木工教室 【継続】

親子で協力して木工に取り組み、木工の体験を通してものづくりへの興味・関心を高める。

○内 容（作品の一例）

メニュー（作品名）	内 容
吊り飾り棚 マガジンラック 魚パズル 小物掛け付きコルクボード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工具の安全な使い方と治具を学ぶ／ボール盤の使い方 ・ 糸鋸の使い方と材質を学ぶ／鋸目の数と板の厚さや材質の関係 ・ 丈夫な接着方法を学ぶ／はた金の使い方と圧力

○開催日時 8月1日（日）、1月9日（日）午前9時30分～正午

- 対 象 小学3・4年生と保護者
- 定 員 10組
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 2,000円程度

【事業4-(3)】 ジュニア木工教室 【継続】

木工を通して基本となる工具の使い方などを学び、ものづくりへの興味・関心を高める。

- 内 容 万年カレンダーの製作，道具箱の製作，ミニシェルフの製作 など
- 開催日時 8月9日(月)，1月10日(月) 午前9時30分～正午
- 対 象 小学5年生～中学生
- 定 員 16人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 3,000円程度

【事業4-(4)】 親子とんとん工作 【継続】

親子で木を使った手軽な工作を体験してもらうことにより、木工の楽しさを感じてもらおう。

- 内 容 小物入れの製作など
- 開催日時 7月22日(木)，7月25日(日)，12月26日(日) 午前10時～11時30分
- 対 象 小学1・2年生と保護者
- 定 員 10組
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 1,000円程度

【事業4-(5)】 初歩の電子工作 【継続】

電子部品にふれ、その組み合わせを試すことによりさまざまな機能が生まれることを体験し、エレクトロニクスに対する興味・関心を喚起する。

- 内 容 LED点滅灯の製作 など
- 開催日時 ・ 7月27日(火), 7月31日(土), 12月25日(土) 午前10時～正午
・ 7月25日(日), 12月23日(木) 午後1時30分～3時30分
- 対 象 小学3・4年生(小学3年生は保護者同伴)
- 定 員 15人
- 申込方法 事前申込(抽選)
- 参加料 700円程度

【事業4-(6)】 趣味の電子工作 【継続】

工作の基本技術や道具の選び方、使い方などを学ぶとともに、工作や実験に取り組むことを通じ、生涯楽しめる趣味としての電子工作にチャレンジする場を提供する。

- 内 容 (作品例)

音の出る電子工作	メロディーフォトスタンドの製作, 電子オルゴールの製作
光の電子工作	LEDキャンドルの製作, 赤外線センサーライトの製作

- 開催日時 7月11日(日), 9月25日(土), 12月12日(日), 3月5日(土)午前10時～午後3時
- 対 象 高校生以上 ※ハンダ付けの未経験者でも受講可能
- 定 員 5人
- 申込方法 事前申込(抽選)
- 参加料 3,000円程度

【事業4-(7)】 キッズ電子工作 【継続】

電子工作や実習を通じ、電磁気のはたらきやエレクトロニクス、ものづくりに対する興味関心を喚起する。

- 内 容 ワイヤレスマイク, 電子ルーレット, ラジオなど
- 開催日時 7月29日(木), 8月7日(土), 12月24日(金), 1月8日(土)
午前9時30分～午後0時30分
- 対 象 小学4年生～中学生
- 定 員 15人
- 申込方法 電話による事前申込(抽選)

○参加料 2,000円程度

【事業4-(8)】糸のこ体験工作 【継続】

糸のこを使用した簡単な工作を通して、ものづくりの楽しさを体験できる機会を提供する。

- 内 容 木のキーホルダー など（15分程度で製作できるもの）
- 開催日時 1月～3月の木曜日～日曜日に10日程度
※ただし木工模型工作室の使用予定がなく、木工担当職員が対応可能な日のみの開催とする。
午後1時～4時30分（受付は午後4時まで）
- 対 象 どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）
- 定 員 なし
- 申込方法 事前申込不要
- 参加料 無料

【事業4-(9)】親子かんたん電子工作室 【継続】

親子で簡単な工作にとりくみ、電磁気やエレクトロニクスに対する興味や関心を喚起する。

- 内 容 はんだ付けを伴わない、ラジオや太陽電池を利用した工作 など
- 開催日時 8月4日(水)、8月8日(日)、12月22日(水)、1月10日(月)
午前10時～正午
- 対 象 小学1～3年生と保護者
- 定 員 10組
- 申込方法 電話による事前申込（抽選）
- 参加料 2,000円程度

【事業4-(10) テック・ラボ 【新規】

3Dプリンタやレーザカッターなどのデジタル工作機械を備えた試作工房で、利用者の創意工夫を生かした作品を自由に製作することができる場を提供する。

○内 容

使い方の研修を受けることで自由に利用できる「メイカースペース」を設置し、利用者の創意工夫を生かした制作活動を促していく。

利用者の年代に応じた内容の、3Dプリンタやレーザカッターなどを使った工作体験教室などを並行して開催し、利用者の裾野拡大を図っていく。

○事業5 野外活動

野外自然観察空間や、隣接する忠別川河畔林、近郊の公園など科学館及び周辺の豊富な自然環境を活用し、季節ごとに様々な活動を展開する。

【事業5-(1) 自然観察会 【継続】

身近な自然の中での活動を通じて自然の不思議や大切さなどを幅広い年齢層に学んでもらうため、自然観察会などの様々な野外活動を行う。

◆**野外自然観察空間 トンボ池の観察**

- 内 容 トンボ池に生息する水生昆虫や両生類などを探して観察する。
- 開催日時 6月20日（日）午前10時～正午
- 対 象 小学生と保護者
- 定 員 10組
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 有料（傷害保険料として）
- 開催場所 自然観察空間（トンボ池）、学習研修室
- そ の 他 サイエンスボランティア旭川との共催事業

◆**冬の自然観察会**

- 内 容 スノーシューで森林内の観察を行い、冬の間も生き続ける動植物の様子を学ぶ。
- 開催日時 2月下旬 午前10時～正午
- 対 象 どなたでも（ただし、小学生は保護者同伴）
- 定 員 15人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参 加 料 有料（傷害保険料・資料代として）
- そ の 他 サイエンスボランティア旭川との共催事業

[事業5-(2)] 自然体験学習 [継続]

身近な自然の中での活動を通じて、いのちの営みの不思議さ、大切さを学んでもらう。

◆特定外来生物ウチダザリガニ捕獲体験

- 内 容 石狩川水系で繁殖している特定外来生物ウチダザリガニの捕獲を体験し、いのちの大切さと生態系の大切さ、外来種被害防止3原則（入れない・捨てない・持ち出さない）について学ぶ。
- 開催日時 6月～9月の間に2回
- 対 象 どなたでも（ただし、小学生は保護者同伴）
- 定 員 各30人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参加料 有料（傷害保険料・資料代として）
- 開催場所 江丹別町嵐山（現地集合）

◆シロザケ遡上観察会

- 内 容 石狩川（忠別川）を遡上するシロザケの成魚の観察を行い、その生態を学ぶ。
- 開催日時 10月中～下旬 午後1時～3時30分
- 対 象 どなたでも（ただし、小学3年生以下は保護者同伴）
- 定 員 15人
- 申込方法 事前申込（抽選）
- 参加料 有料（傷害保険料・資料代として）
- 開催場所 ツインハープ橋下など（科学館集合、マイクロバスで移動）

◆シロザケ生態展示会

- 内 容 シロザケの生態についてパネル展示とサケトランクキットで学ぶ。
- 開催期間 9月下旬～11月上旬
- 協 力 札幌市豊平川さけ科学館

3 科学イベント・行事

○事業6 科学イベント

来館者の多い土・日曜日，祝日を中心に，公開実験や科学工作などの参加体験型のイベントを開催し，子どもたちの科学への興味・関心を育む。

【事業6-(1) サイエンススタジオ 【継続】

祝祭日や夏・冬休みなどに合わせてワークショップや自由参加の科学イベントを開催し，来館者が気軽に遊びの中から科学に触れあえる機会を提供する。

○内 容 原則事前申込不要とし，こどもから大人まで，科学に親しみ楽しむことのできるイベントを開催する。その場で参加できる気軽さと科学への興味の入口になるようなテーマを選定し実施する。

(テーマの一例)

科学あそび大集合，サイパル縁日，アクティブキッズひろば など

○開催日時 GWサイエンススタジオ：5月1日(土)～5月5日(水)

秋のサイエンススタジオ：11月23日(日)

冬のサイエンススタジオ：2月23日(水)

春のサイエンススタジオ：3月19日(土)～21日(月)

午前10時～午後4時

○対 象 どなたでも

○参 加 料 無料

※新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまでの間は実施しない

【事業6-(2) サタデーサイエンスひろば 【継続】

来館した子どもたちが科学を楽しみ，興味を持ってもらうため，土曜日の午後に公開実験ショーを行う。

○内 容 原則として月替わりでテーマを変え実施する。

令和3年度実施予定テーマ

燃焼，元素，カラフルパワー，炎と爆発，ドラム缶つぶし，黒コゲ危機一髪！，音，科学マジック，静電気，空気のイリュージョン

○開催日時 毎週土曜日 午後1時30分，午後3時30分 ※各回約20分間

○対 象 どなたでも

○定 員 64人

○参 加 料 常設展示室観覧料

- その他 申込み不要。屋外実験の場合は定員を設定せず、参加無料で実施する。

【事業6-(3) 低温実験 【継続】

低温条件下における様々な自然現象を学ぶため、雪や氷をテーマとした各種実験を行う。

- 内容 過冷却水の実験、ダイヤモンドダストの観察、 -30°C の世界のシャボン玉 など
- 開催日時 土曜日、日曜日、祝日 ※夏休み期間は毎日実施
午前10時、午前11時、午後0時30分、午後1時30分、午後2時30分、午後3時30分
※各回約15分
- 対象 小学生以上
- 定員 10人
- 申込方法 前の実験開始後から会場前で受付
- 参加料 常設展示室観覧料
- その他 業務委託により実施

【事業6-(4) 科学館まつり 【継続】

文化の日に開催。科学館の事業活動をPRする機会として、各種体験ブースの実施や常設展示・プラネタリウムの無料開放を行う。

- 内容 常設展示室・プラネタリウム無料開放、理科実験・電子工作・パソコン・木工作の各分野から体験ブースを出展。
- 開催日時 11月3日（火）午前9時30分～午後5時

【事業6-(5) わくわくワーク 【継続】

冬期間の土曜日の午前に来館した子どもたちに科学を楽しみ、興味を持ってもらうため、様々な工作・体験等を行う。

- 内容 短い時間でできる様々な工作・体験を実施。
- 開催日時 11月からの毎週土曜日 午前10時～正午
- 対象 どなたでも
- 定員 特になし
- 参加料 無料
- その他 サイエンスボランティア旭川との共催事業

【事業6-(6)】 ミニミニ展示 【継続】

生命や自然，地球環境をはじめとした自然科学に関する様々な分野の展示によって来館者の興味・関心を高め，知識を深める。

- 内 容 ジオパークやシロザケの生態など，パネルや実物を用いて展示する。
- 開催日時 随時
- 対 象 どなたでも
- 定 員 特になし
- 参 加 料 無料
- そ の 他 ジオパーク関連展示については，社会教育課が主催主管し，科学館の共催とする。

【事業6-(7)】 おうちでサイバル 【新規】

おうちでできる簡単な実験や工作をパッケージングし配付し，コロナ禍でも手軽に体験できる機会を提供する。

- 内 容 おうちでできる簡単な実験や工作を配付し，家庭で体験してもらう。
YouTubeチャンネルで解説動画を掲載し科学原理や現象を体験しながら学んでもらう。
- 開催日時 主に長期休暇期間や祝日
- 対 象 どなたでも
- 定 員 一人一個。その日の配付個数がなくなり次第終了
- 参 加 料 無料

○事業7 各種行事

【事業7-(1) 科学の夢の図画コンクール 【継続】

次代を担う子どもたちが、科学の夢に関する絵画を自由な発想で楽しく表現することで、科学的な探求心と想像力の伸長を図り、科学に対する親近感を助長させることを目的とする。

○応募資格 市内の小・中学生

○作品規定 未発表の作品で未来の科学の夢や未来の世界を描いた作品。

○各学校への取り組み依頼 6月

○作品受付期間 8月17日（火）～9月28日（火）

○展示会

内 容：優秀作品の展示

開催期間：10月7日（木）～10日（日）

○表彰式

内 容：特別賞受賞者の表彰

開催日時 10月10日（日）

○後援機関（令和2年度実績）

旭川市教育研究会図工・美術部，北海道発明工夫教育連盟，旭川発明協会，北海道新聞旭川支社，朝日新聞北海道支社，読売新聞北海道支社，NHK旭川放送局，STV旭川放送局，旭川ユネスコ協会

【事業7-(2) 「宇宙の日」全国小・中学校作文・絵画コンテスト 【継続】

「宇宙の日」全国小・中学生作文・絵画コンテストに応募する作品を募集し、全国展に出品する。

○内 容 「宇宙の日」記念行事として開催される。小・中学生に宇宙や天文について夢と興味を持ってもらうためのコンテスト。当館では作文・絵画の募集及び審査と表彰，最優秀作品の全国展への出品までを協力業務として担当する。

○主 催 一般財団法人日本宇宙フォーラム ほか

○応募締切 9月12日（木）（必着）

○作品審査 審査期間：9月下旬

○表彰式 12月以降予定

【事業7-(3) 科学技術週間行事 【継続】

科学技術について広く一般に理解と関心を深めてもらい、日本の科学技術の振興を図る。

- 内 容 「科学技術週間」は、科学技術について広く一般に理解と関心を深めてもらい、日本の科学技術の振興を図ることを目的として昭和35年2月に制定された。毎年4月18日を含む月曜日に始まり日曜日に終わる1週間に開催される「科学技術週間」に、文部科学省作成による一家に一枚シリーズポスターの配布を行う。
- 開 始 日 4月13日(火)～ ※なくなり次第終了
- 配布方法 館内及び市の施設に配置し、自由に持ち帰ってもらう。
- 配布枚数 250枚

[事業7-(4)] 科学技術映像祭入選作品上映会 【継続】

優れた科学技術に関する映像を選奨し、科学技術の普及と向上を図ることを目的とし科学技術映像祭入選作品を上映する。

- 内 容 (公財)日本科学技術振興財団主催の科学技術映像祭入選品のうち、来館者の需要が高いと思われる作品を選定し、館内で上映し科学リテラシーの向上を図る。
- 上映作品 作品未定
- 開催期間 土曜日、日曜日、祝日及び長期休暇期間中の平日
- 時 間 開館時間中リピート上映
- 対 象 どなたでも
- 定 員 なし
- 参 加 料 無料

○事業8 情報と自主的な学習の場の提供

【事業8-(1)】 レファレンスルームの運営 【継続】

書籍等による情報提供にとどまらず、自らが検鏡標本を作成し、光学機器類を利用して観察を行うなど、子どもから大人まで幅広い年代の利用者が自主的に学習できる場を提供する。

◆来館者の主体的・自主的な学習の場、ふしぎからはじまる〈科学〉との出会いの場

幅広く科学に係る情報、機器類、資料などを備え付けるとともに、常駐の相談員を配置して様々な年齢層の来館者が主体的・自主的に学習できる場とする。

また、岩石や化石を調べたり、身近な生物の生態を間近で観察したり、科学おもちゃでの遊びから科学の原理にふれるなどの体験を通して、子どもから大人まで科学の不思議さや楽しさを味わい深めることができる場として提供する。

◆生物・地学関連事業開催の場

生物・地学分野の調査・実習活動の拠点施設として利用する。

○施設概要

項目	内容
面積	89.64㎡（生物準備室を含む）
収容人数	25人
設備	<ul style="list-style-type: none"> ・観察用光学機器：生物顕微鏡，位相差顕微鏡，偏光顕微鏡，実体顕微鏡 ・視聴覚機器：各種の学習用映像資料（DVD） ・書籍類：各種図鑑，啓蒙書，専門書 ・実験機器：乾熱滅菌器，高圧滅菌器，恒温器，岩石カッター ・採集及び標本作成用具 <ul style="list-style-type: none"> ：植物・昆虫採集用具，岩石採取用具，展翅板，展足板 ・フィールド観察機器 <ul style="list-style-type: none"> ：双眼鏡，ルーペ，フィールドスコープ，バットディテクター

【事業8-(2)】 YouTubeの活用 【新規】

YouTubeを活用して、プラネタリウム，実験及び工作などの動画を配信し，科学館に来館しなくても学べる環境を提供する。

季節毎の星空の解説や，実験，自宅でできる工作など，科学館に来館しなくても学べる環境を提供する。

- 主な掲載内容
 - ・ 星空解説
 - ・ 実験動画
 - ・ 工作紹介

4 天文普及事業

○事業9 プラネタリウム事業

天体や天文現象を星空投影や映像を駆使して解説し、天文知識の普及を図ることを目的とする。幅広い年齢層の観覧者に対応し、多くの人たちに親しまれるプラネタリウムにするため、自主制作番組（一般番組、学習番組、幼児番組）のほか、ドームシアターなどを上映する。

また、施設の効果的かつ多目的な利用を推進し、星や宇宙に興味を抱かせ、一人でも多くの人にプラネタリウムに足を運んでもらうため、話題性の高い特別番組やコンサート、講演会なども取り入れ、天文台とも連携し相乗効果を発揮できる事業に取り組む。

さらに、季節の星空や天文現象、天文関連のイベントなどを紹介するリーフレットを作成・配布するとともに、季節や年中行事、イベントに応じた参加性の高い飾り付けをロビーで行い、空間演出や集客促進を図っていく。

◆プラネタリウム投影時刻（予定）

	午 前		午 後			
夏期の平日 (4月7日～9月29日)	9時40分 (団体優先)	11時 (団体優先)	1時10分 (一般番組)	2時30分 (ドームシアター)	3時40分 (一般番組)	
冬期の平日 (10月1日～4月6日)	11時 (団体優先)		1時10分 (一般番組)	2時30分 (ドームシアター)	3時40分 (一般番組)	
春休み期間 冬期の土・日・祝日	10時10分 (一般番組)	11時20分 (幼児番組)	1時10分 (一般番組)	2時30分 (ドームシアター)	3時40分 (一般番組)	
夏期の 土・日・祝日	10時10分 (一般番組)	11時20分 (幼児番組)	1時10分 (一般番組)	2時10分 (幼児番組)	3時 (ドームシアター)	4時10分 (一般番組)

※平日午前中の「団体優先」は、団体の希望番組を投影。

団体予約がない場合、9時40分は一般番組、11時は幼児番組を投影。

※特別投影催事により番組の内容時刻を変更する場合がある。

【事業9-(1) プラネタリウム一般番組 【継続】

時々の星空や天文現象を、ドーム映像も織り交ぜながら投影し、専門のスタッフが直接解説し、多様な方々への天文知識の普及を図る。

- 内 容 天体や天文現象を、星空と映像を組み合わせて解説する、約40分間の番組。季節や時々の天文現象にあわせてテーマを設定し、生解説を行う。

＜令和2年度テーマ（参考）＞

- 4月 「北の親子星」（おおぐま座・こぐま座）
- 5・6月 「サザンクロスと金環日食（南半球の星空・日食）
- 7～9月 「恐竜はなぜ滅んだの？」（隕石・流星・惑星）
- 10月 「赤い星火星」（火星・秋の星座）
- 11・12月 「クリスマスの星」（秋から冬の星座・ベツレヘムの星）
- 1・2月 「夜空の狩人オリオン」（ベテルギウス・星雲）
- 3月 「北斗七星物語」（北斗七星・春の大曲線）

【事業9-(2) プラネタリウム幼児番組 【継続】

幼稚園や保育所（園）等、未就学児童の団体向け幼児番組を投影し、星や宇宙に興味を持ってもらう。

- 内 容 幼稚園・保育所等の幼児を主体とする団体に向けて、20分間程度の番組を制作・投影する。また、幼児連れの一般観覧客もプラネタリウムを楽しめるよう、夏期の平日と冬期は1回、夏期の土・日・祝日と夏休み期間は2回、「なかよしタイム」として投影する。
- 番組は約2ヶ月ごとに切り替える。子どもたちが飽きないように、画像の動きが多い構成にし、2～3年ごとに新しく番組を制作・入れ替えを行う。

＜令和3年度テーマ（予定）＞

- 4月 : 「わんわんわん」
- 5・6月 : 「よぞらのどうぶつえん」
- 7・8月 : 「あのね、きょうりゅうさん」
- 9・10月 : 「かぐやひめ」
- 11月～12月25日 : 「クリスマスのふしぎ」
- 12月26日～2月 : 「ふゆのきょうだいぼし冬の夜空の兄弟星」
- 3月 : 「わんわんわん」

【事業9-(3) プラネタリウム学習番組 【継続】

学校教育における天文学習を支援するため、学習指導要領をもとに小中学生などの団体向けの学習番組を製作し投影する。

- 内 容 小・中学校での天文教育の一助となるよう、学習指導要領にあわせて番組を制作・投影する。また、案内送付等により学校利用の誘致を積極的に進める。

小学3年生学習番組	太陽の動きと影のでき方、季節の星座解説
小学4年生学習番組	月のかたちと星の動き、季節の星座解説
小学6年生学習番組	月の満ち欠けと太陽、季節の星座解説
中学生学習番組	「地球の動きと星の動き」 天体の見かけ上の動きは地球の自転と公転により引き起こされることが、季節の星座解説 「太陽系と宇宙」 太陽が輝く仕組みや表面の様子・惑星の動きなど、太陽系から銀河系、銀河系外の天体の紹介、季節の星座解説。

- 対 象 当該学習の対象になる学級・学年・学校単位の団体。
- 実施時期 通年。原則夏期は平日の午前9時40分、午前11時、冬期は平日の午前11時のほか、可能な範囲で投影を実施する。

【事業9-(4) プラネタリウムドームシアター 【継続】

多様性のある番組展開を行いプラネタリウムの利用を促進するため、全天周ドームを使用してシアター番組の上映を行う。

◆ドームシアター

全天周映像番組「HORIZON～宇宙の果てにあるもの～」の投影を行う。

(使用許諾期間：令和4年3月31日まで)

[事業9-(4)] プラネタリウム特別番組 [継続]

独創的な特別番組や特別事業を製作・実施するなど、プラネタリウムの効果的かつ多様な利用を推進する。

◆夜間特別番組

天体やプラネタリウムに普段親しむ機会の少ない人にも気軽に楽しんでもらうため、星空の下で音楽や季節の文化などを紹介する番組を投影する。観覧客に社会人の割合が高いことを想定し、夜間（午後6時～）の投影を行う。

- 実施時期（予定） 12月18日（土）クリスマスコンサート（仮）
3月12日（土）春の特別番組（タイトル未定）

◆ヒーリング番組

大人を対象に番組の途中でヨガのストレッチや瞑想を取り入れ、癒しの音楽で観覧者が星空とともにリラックスしてもらうことを目的とした番組。

- 実施時期（未定）

◆子供向け英語学習番組

子ども向けに10月のハロウィン時期の夜空で、星に関する英単語を交えながら星空解説を行う。

簡単な星に関する英単語を扱うハロウィンソングを使用し、一緒に歌いながら楽しく星座や星空に関する英単語に触れてもらう。

- 実施時期（予定） 10月の土日、幼児向け番組の枠のいずれかで実施

○事業10 天文台事業

天文台への来訪者は様々な関心を持っており、天文に関する知識や求めるもののレベルも異なっているため、それぞれのニーズに応じた活動が必要である。このため、天文台では講演会や観望会、親子天文教室など、多様かつ多彩な普及活動をサイエンスボランティア旭川や天文同好会等の協力を得て実施する。

【事業10-(1) 星の教室 【継続】

最新の天文学や注目の天文現象等について、専門のスタッフが分かりやすく解説する天文講座を開催する。

- 開催日時 年6回程度 主に隔月最終日曜日の午後2時～4時
- 対象 一般
- 定員 50人程度
- 参加料 無料
- その他 サイエンスボランティア旭川・特別学芸員を外部講師として依頼する回あり。

【事業10-(2) 親子天文博士 【継続】

天文台やプラネタリウムなどの天文施設を利用して、親子で楽しく天文知識や観測方法などを学ぶ。

- 内容 屋上に移動用望遠鏡を設置し、親子で望遠鏡を操作して天体を観測。
※曇雨天のときはプラネタリウムにて季節の星座解説などを行う
- 開催日時 年2回、6月と9月の土曜日（予定）
6月は午後7時30分～9時、9月は午後7時から8時30分
- 対象 小・中学生と保護者
- 定員 6組（12人～20人程度）
- 申込方法 Webから申込み
- 参加料 無料

[事業10-(3)] 天体を見る会 【継続】

当日の星空や話題の天文現象，観望好時期になる天体についてプラネタリウムで解説し，季節の一等星や惑星，その他の天体の様子を実際に天文台の大型望遠鏡を使って観測する。

◆天体を見る会

○対象 子どもから大人まで（ただし，中学生以下は保護者同伴）

○定員 25人

○開催日 4～3月 月1～3回程度（曇雨天時は解説のみ）

○開催時間 夏期：午後7時30分～9時，冬季：午後7時～8時30分

※開始30分はプラネタリウムにて当日見える天体や星空の事前解説を行う。

※天候が観測に適さない日は解説を延長し，最大1時間程度で終了する。

※開催時間は季節により変更する。月食など天文現象に合わせた時刻の変更・延長もある

○申込方法 Webから申込み

○参加料 無料

◆天文台での天体観測

メニュー	内 容
昼間の星の観測 ※普段の天文台公開で実施	・65cm望遠鏡では昼間でも星が見えることを体験してもらう。 ・20cm望遠鏡で太陽黒点を観測する。 ・夏は屋上から旭川の眺望も楽しむ。
夜の星の観測 ※天体を見る会で実施	・20cm天文台：月・惑星を中心に観察する。 ・65cm天文台：月のクレーター・惑星の他，微光天体（星雲星団等）も適宜観察する。 ・観測デッキ：移動望遠鏡や双眼鏡を使い，広い範囲の星空を観察。国際宇宙ステーションの通過も観測する。

◆天文台観測画像の観望会

○内 容 日食や月食のときに，天文台の観測画像を館内ケーブルを通じて配信し，プラネタリウムやサイエンスシアターで映像として見ることができるシステムを活用した観望会を開催する。

○開催日時 未定

○対 象 どなたでも

○定 員 プラネタリウム又はサイエンスシアター収容人員

○参加料 無料

【事業10-(4) 出張天文教室 【継続】

小中学校や公民館など、市の所管の施設へ出向き、観望会や天文に関する講座を行う。天文の普及と参加者の天文に対する興味関心の喚起を目的とする。

- 内 容 パソコン、プロジェクターを使った天文解説や望遠鏡での天体観測
- 開催日時 火～金曜日 午前9時～午後5時30分 ※天体観測の場合は日没後の時刻に実施。1回1～2時間程度。
- 対 象 市内小中学校、公民館など
- その他 1日当たり1回を上限とする

【事業10-(5) 夏・冬休み天文教室 【継続】

工作キットを使用して小型の天体望遠鏡を製作する。製作を通して、原理や仕組みを学び天文への興味と関心を育む。

- 内 容 天体望遠鏡製作、自由研究利用に向けた解説や、製作した望遠鏡の使い方の解説
- 開催日時 年に2回（夏・冬休み） 午前10時～正午
- 対 象 小学4年生～中学生
- 定 員 10人
- 申込方法 Webから申込み
- 参加料 4,000円

【事業10-(6) コズミック・カレッジ 【継続】

天文・宇宙に関わる工学技術の仕組みや構造を、ゴム動力飛行機やモデルロケットの製作を通じて楽しみながら学び、夏休みの自由研究にも役立ててもらおうことを目的とする。

- 内 容 ゴム動力飛行機の製作と試験飛行/モデルロケットの製作と打ち上げ
- 開催日時 8月3日（火）・4日（水）午前10時～午後4時 ※1日のみの参加も可
- 対 象 小学4年生～中学生
- 定 員 各日10人
- 申込方法 Webから申込み
- 参加料 各日2,000円
- 講 師 ゴム動力飛行機の製作は、サイエンスボランティア旭川・特別学芸員が講師を担当する。

【事業10-(7)】天体を撮る会 【新規】

天体を観測し、それを撮影・記録する楽しさを体験してもらい、天文への新たな興味や関心を促すことを目的とする。

- 内 容 レンズ交換式カメラ（一眼レフやミラーレス）を持参してもらい、天文台の望遠鏡に接続して天体撮影を体験してもらいます。
- 開催日時 10月7日（木）～10月10日（金）午後6時～8時
- 対 象 小学生から大人まで、当日レンズ交換式カメラを持参できる方
（中学生以下は保護者同伴）
- 定 員 7人
- 申込方法 Webから申込み
- 参 加 料 無料

5 学校等連携・人材育成事業

○事業11 学校等連携事業

【事業11-(1)】 科学館体験学習 【継続】

小中学校等の団体利用に際し、学年や目的に応じた様々なプログラムを用意し、理科や生活科、更には総合的な学習の時間などの課外授業を支援する。

- 内 容 理科や生活科、総合的な学習の時間において、科学館を有効に活用してもらうため、小中学校等の団体見学を受け入れ、実験実習やサイエンスショーの実演などを行う。
- 実施期間 通年
- 申込受付 通年
- 対 象 主として小中学生
- 参 加 料 体験メニューにより50円～10,000円
- 定 員 それぞれの学習プログラムで実施可能な人数
- 学習プログラムのメニュー
修学旅行や理科の授業、総合的な学習における調べ学習など各利用形態・目的に応じ、学校等と打ち合わせをし決定する。

<科学館体験学習メニューの分野>

実験工作，電子工作，低温実験，サイエンスショー，パソコン実習，木工作，生物実習

【事業11-(2)】 プラネタリウムの学校授業での活用 【継続】

小中学校と連携して、プラネタリウムを学校の理科において活用する実践的な授業のプログラムを作成する。

- 内 容 プラネタリウムの星空を利用し、夜間観測会に代わる擬似的な天体観察体験を主とした授業プログラムの作成等、学校授業での活用を促進する。
なお、授業の進行を小中学校の教員が主体となって進め、その授業を行うためのプラネタリウム環境の構築や機器操作などを科学館担当者が行う。
- 実施時間 平日の午前(団体番組指定可能枠)
- 利用対象 小中学校の理科及び総合学習の時間、教員研修会など

【事業11-(3)】 巡回実験教室 【継続】

科学館へ来館することが難しい子どもたちへの自然科学普及啓発事業の一つとして、学校や子ども会などへ出向いて工作実習や公開実験を行う。

- 内 容 科学館体験学習メニューのうち、器材の持ち出しが可能なものを対象に、現地に出張して実験実習を実施する。実施日は整理休館日とし、旅費が発生する場合は相手方負担とする。
- 実 施 日 (令和3年度 計8回)
4月30日(金)、5月28日(金)、6月30日(水)、9月30日(木)、10月29日(金)、
11月30日(火)、1月28日(金)、2月25日(金)
- 開催時間 1～2時間程度
- 対 象 学校や幼稚園、保育所(園)、子ども会・町内会、福祉施設など
- 受付単位 クラス、学年、学校、子ども会などの団体
- 参 加 料 実験工作メニュー：1人当たり50～300円
サイエンスショーメニュー：1回当たり1,000～10,000円

※新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまでの間は、依頼受付時に感染防止対策手法について、問題無いことを確認した上で申込みを受け付ける。

○事業12 人材育成事業

【事業12-(1)】 実習生の受入れ 【継続】

学芸員資格取得を希望する博物館実習生を受け入れ、将来博物館等に関わる人材の育成に寄与する。

- 実習期間 8月20日(金)～8月27日(金)
- 実習時間 午前9時～午後5時
- 実習場所 旭川市博物館及び旭川市科学館
- 対 象 大学又は通信教育で学芸員取得関係の単位を取得済み又は取得中の者
- 定 員 20人
- 募集方法 大学を通じて受付
- 受付期間 4月1日～5月31日
- 実習プログラム
科学館事業・博物館事業の補助的業務を中心に、資料整理や普及事業、展示案内を体験する

◆研修生，インターンシップの受入れ

研修生，インターンシップについて研修目的，日程などを考慮してプログラムを作成し受け入れる。

○募集期間 通年随時

【事業12-(2)】 人的ネットワークづくりと人材育成 【継続】

他の科学館や博物館，公的研究機関や各種学会との人的ネットワークづくりを推進する。

○内 容

他の科学館・博物館の学芸員や公的研究機関や各種学会の研究者と共同で研究事業や講演会，観察会を開催する他，研究発表会や研究大会へ参加するなど，人的ネットワークづくりを進める。また，全科連及び道内の科学館連絡協議会などが主催する研修会に参加するなど人材育成を図る。

【事業12-(3)】 サイバル理科研修会 【継続】

小学校の教員を対象に，理科教育スキルの向上を目的とした実践的な研修講座を実施する。

○内 容 小学校教員を対象として，理科実験技能向上のための研修を行う。実験操作や道具の選び方といった基本的な実験実技や，授業の組立て・課題の取り上げ方などを中心に取り上げる。

○実施日時 3月中旬～末

○対 象 旭川市内及び近郊の小学校教諭

○定 員 10人

【事業12-(4)】 教育大学生の受入れ 【継続】

教育大学旭川校で実施している「教育フィールド研究Ⅰ」を受講する学生を受け入れ，社会教育に携わる人材の育成に寄与する。

○受入期間 5月～10月

○実習場所 旭川市科学館，その他

○定 員 北海道教育大学生20人程度

○実施内容 低温実験体験指導や各種事業の様々な補助

6 ボランティア等との連携事業

○事業13 ボランティア事業

【事業13-(1)】サイエンスボランティア旭川自主事業 【継続】

サイエンスボランティア旭川に事業機会（諸室の使用や備品類の貸与等も含む）を提供し、独自に企画運営する工作・実験教室等を開催する。

○内 容 サイエンスボランティア旭川の特別学芸員を中心に、各種工作・実験教室等の科学普及事業を企画・運営する。

○主な事業

- ・日曜日も科学館（毎週日曜日）
- ・わくわくワーク（11月～3月の土曜日）
- ・夏休み/冬休みかんたん工作
- ・旭川 学生の科学展

■ 調査研究活動

○事業14 調査研究活動

[事業14-(1)] 太陽黒点や惑星・月などの天体観測 【継続】

これまで行われてきた太陽黒点観測を継続実施するほか、天文愛好家や専門家・研究者との協働による天文台運営を推進し、天文観測拠点の一つとしての役割を果たす。

◆太陽黒点観測などの天体観測

○太陽黒点観測

太陽の活動状況を示す太陽黒点の数や大きさ等の観測と調査（年間観測日数200日前後）

○星食観測

月が星を隠す瞬時を測定する。これはその土地でしか得られない貴重なデータとなる。

○時々の天文現象の観測

日食、月食、流星群、彗星の接近など、時々の天文現象の観測と調査。

◆太陽黒点観測記録の活用

観測記録を電子データとして記録保存し広く公表する。また、これまでに蓄積された観測記録との比較、検索、情報交換などに役立つため、旧データの電子データベース化事業に取り組む。蓄積されたデータは研究報告やホームページで公表する。

◆天文観測支援・共同研究

天文台の使用について、学生や研究者等にも門戸を広げ、天文部等の活動や天文研究の拠点として活用する。

[事業14-(2)] 野外自然観察空間の生態系調査 【継続】

敷地内の野外自然観察空間及び周辺の生態系調査を継続的に実施し、生態系がどのように変化していくかを定期的に観測する指標づくりに取り組む。

○実施時期 5月～10月

○調査頻度 2年に1回（次回は令和4年度実施予定）

○調査内容 植物、小型ほ乳類

○調査結果 調査結果は確認種のリスト化、確認箇所の明示、一定の分析を行った上で、研究報告に掲載し公表する。

■ マーケティング活動

1 情報提供とPR活動

○事業15 広報活動

【事業15-(1) ホームページ等の運用管理 【継続】

ホームページを活用して広く情報提供を行うとともに、市民や利用者とのコミュニケーションを推進し、様々な意見や提言などを反映させていく。

科学館の施設案内や利用方法、事業活動などについてホームページを通して広く紹介する。また、市民や利用者とのコミュニケーション活動を推進し、様々な意見や提言などの科学館運営への反映に努める。

- 主な掲載内容
- ・ 科学館案内や各種事業活動の内容
 - ・ 募集情報
 - ・ ミュージアムショップ紹介
 - ・ 研究成果
 - ・ 休館・開館情報
 - ・ プラネタリウム時刻表

【事業15-(2) 市民広報，報道機関への情報提供 【継続】

多様な報道チャンネルを活用し、事業活動の周知を図る。

- 内 容 事業の広報に当たって、市民広報や報道機関など多様な報道チャンネルを活用し周知を図る。

○事業16 刊行物・PR印刷物の作成

【事業16-(1) 『科学館報』の発行 【継続】

科学館の施設概要，前年度の事業実績報告，当該年度の事業活動計画などを紹介する要覧を作成しホームページに掲載する。

- 発行時期 令和3年5月（予定）
- 公表方法 PDF形式により，ホームページを通じて配付。

【事業16-(2) 『旭川市科学館研究報告』『天文略表』の発行 【継続】

科学館の学芸員等が主体的に行っている調査・研究に関する報告書を作成し，科学館での調査研究活動を広く市民及び関係機関などへ公表する。

◆『旭川市科学館研究報告』第16号の発行

- 発行時期 令和4年3月末
- 作成部数 200部（A4版40頁程度予定）
- 配付先 関係機関や学会，視察・研究者などへ配付。ホームページでも公開する。

◆『天文略表』の発行

二十四節気・雑節，旭川における日の出・入と薄明時間，旭川における月の出・入と月齢，その年の主な天文現象と惑星めぐり，旭川における日食・月食の予報，旭川における主な星食，惑星現象，天文台の概要などを紹介する。

- 発行時期 令和3年12月（予定）
- 作成部数 500部（A4版24頁）
- 配布先 希望者，関係機関へ配付，科学館ホームページにPDF版を掲載。

【事業16-(3)】 各種パンフレットなどのPR印刷物の発行 【継続】

案内パンフレットなど作成し、広く科学館の施設概要や展示内容などをPRする。

◆『科学館案内』（パンフレット）の作成

一般来館者・団体見学者を含めて子どもから大人まで、科学館の概要を紹介するために作成する。

◆『プラネタリウム案内』（リーフレット）の作成

一般来館者・プラネタリウム観覧者（一般・団体）に、プラネタリウムと天文台の行事や、季節の星座と天文現象を紹介するために作成する。四半期ごとに作成する。

◆『科学館行事予定』の作成

科学館の行事予定を掲載したポスター（チラシ）を作成し館内に掲示，学校等に配布する。

2 集客活動

○事業17 団体客の受入れ・誘致

[事業17-(1)] 各種学会・会議等の受入れ [継続]
各種学会・会議の受け入れや市民向け事業の共催などに取り組む。

[事業17-(2)] 観光関係機関・団体と連携した市外団体や観光客利用の誘致 [継続]
観光関係機関等と連携して、市外の団体や観光客の誘致を図る。

コンベンション等の受け入れ及び、市観光課等が開催する誘致宣伝活動への参加及び道外の観光関係者の視察等の受け入れを行い、PRを行う。

○事業18 公聴・アンケートの実施

[事業18-(1)] 来館者アンケートボックスの設置 [継続]
科学館のより良い運営と質の高い来館者サービスを確保するため、来館者からの意見・感想などを集約する。

アンケートボックスを科学館内に設置し、来館者の意見を集約及び記入者へ回答するとともに、館の事業運営に反映させる。また、一般的な質問・回答についてはホームページに掲載する。

[事業18-(2)] 事業活動アンケートの実施 [継続]
科学館事業に反映させるため事業参加者からアンケートを実施・集約する。

事業活動アンケートを事業参加者へ対し実施し、そのアンケート結果を次年度における事業活動へ反映させる。

○事業19 他施設・市民団体・学会との連携・協働

[事業19-(1)] 旭川市博物館や旭山動物園など他施設との連携 [継続]

旭川市博物館や旭山動物園など設置目的や来館者層が共通した他施設と連携しながら、小中学校の団体見学など、市内をはじめ道内各地からの来館者誘致に取り組む。

◆旭川市博物館や旭山動物園との連携による来館者誘致

- 旭川市博物館や動物園との共通見学コースの設定
- 旭川市博物館や動物園との協力による来館者誘致活動の展開

◆旭川市博物館・彫刻美術館・井上靖記念館・旭山動物園・市外博物館施設との連携

- バリアフリーおもちゃ博，まなびピアの共催

[事業19-(2)] 市民団体等との連携・協力 [継続]

科学館の設置目的に合致した活動を行う市民団体等との連携・協力を図り，科学館の効果的な事業活動を展開する。

◆日本野鳥の会旭川支部及び旭川野鳥の会との連携による講演会の実施

- 共催事業として野鳥講演会を開催する。講師選定は野鳥の会が行い，会場の打合せや司会進行は科学館が行うなど双方が協力・連携し事業を進める。
- ※令和3年度については，新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

◆あさひかわジオパークの会との連携

- 社会教育課が実施するジオパーク構想推進事業「ジオカフェ」「ジオフェスティバル」について，共催館として会場提供する。